

関東ふれあいの道 埼玉①水源のみち

渡辺 真一

2019年4月20日(土) 曇りのち晴

参加者： 近藤、鶴田、大西、今井、鎌田、渡辺(敬称略6名)

コースと時間記録： 清東橋 9:45～登山口(木橋) 10:00～11:00 尾根 11:15～11:55 棒ノ嶺 12:45～権次入峠 13:00～岩茸石 13:20～13:30 林道 13:40～13:55 白孔雀の滝 14:00～白谷沢登山口 14:50～有間ダム 15:00～15:20 さわらびの湯～バス停 16:02---バス乗車 16:25～17:10 飯能

当日は朝からからりと晴れる予報だったが、雲が多く肌寒い気候だった。早くに川井の駅に辿り着いた方々は寒そうに待合室にこもっていた。しかしバスに乗り清東橋に着く頃には晴れ間が出て温かくなった。百軒茶屋を越えると右に沢を渡る橋がありそれ



わさびの花

が棒ノ嶺への登山口だった。ちょうど花が咲き始めたわさび田

の間を抜けていくと樹林帯を延々と上る登山道が待っていた(ちなみにわさびの



棒ノ嶺登山口の木橋にて



尾根道のミツバツツジ



花はほんの短時間湯通ししてビニール袋などに入れて揉んだあとしばらく放置するとわさび特有の辛みが出て、酒の肴に最高)。

樹林帯を登り切ると尾根に出てそこにはミツバツツジの咲く別世界が開けていた。それもつかの間で尾根道は再び暗い樹林帯になった。我々と前後して若者10人ほどのグループが登っていたが、追い越させても直



棒ノ嶺山頂にて



2分咲の桜

ぐ休憩で止まってしまい、結局山頂へは我々の方が早く到着した。山頂は驚くほどたくさんの人であふれていた。我々の逆コースである白谷沢や、関東ふれあい

の道東京⑦山草のみち（御嶽駅～岩茸石山～棒ノ折山～上日向）から入る人の方がずっと多いという事だろう。あるいは小沢峠から黒山経由、高水山から岩茸石山経由もある。

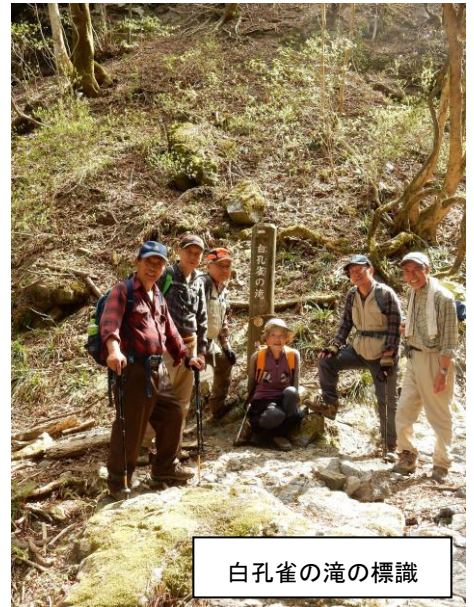
しかしながら、山頂の桜はようやく数輪が咲いたところ、残念ながら1週間ばかり早かった。それでも気を取り直してワインで花見の乾杯。山頂からは北北東に武甲山と大持山が見え、南東方向には西武ドームが眺められた。登山口の上日向（清東橋）バス停から棒ノ嶺を通り権次入峠までは東京⑦とダブっていて、その先で初めて純粹に埼玉県に入る事になる。水源のみちというのは実は白谷沢を通るコースだから名付けられたのであろう。

権次入峠からの下りは雪や雨でぬかるむと手に負えないほどどろ

どろの急坂になるのだが、幸い好天の後だったので問題なく岩茸石に辿り着く。ここでほとんどの人は尾根道をそのまま下って「さわらびの湯」に直行するのだが、われわれはコース通り白谷沢に向かう。急な崖を巻くところでカタクリが咲き残っていた。林道に出て小休止、ここで外人だけの大グループに出会う。白谷沢を1/3程下ったところに写真スポットである白孔雀の滝の標識があった。



白孔雀の滝の鎖場



白孔雀の滝の標識

たまたま通りかかった女性に写真撮影をお願いした。無事に撮り終え、鎖で下るところが白孔雀の滝であったが、道から滝はほとんど見えず写真には撮れなかった。

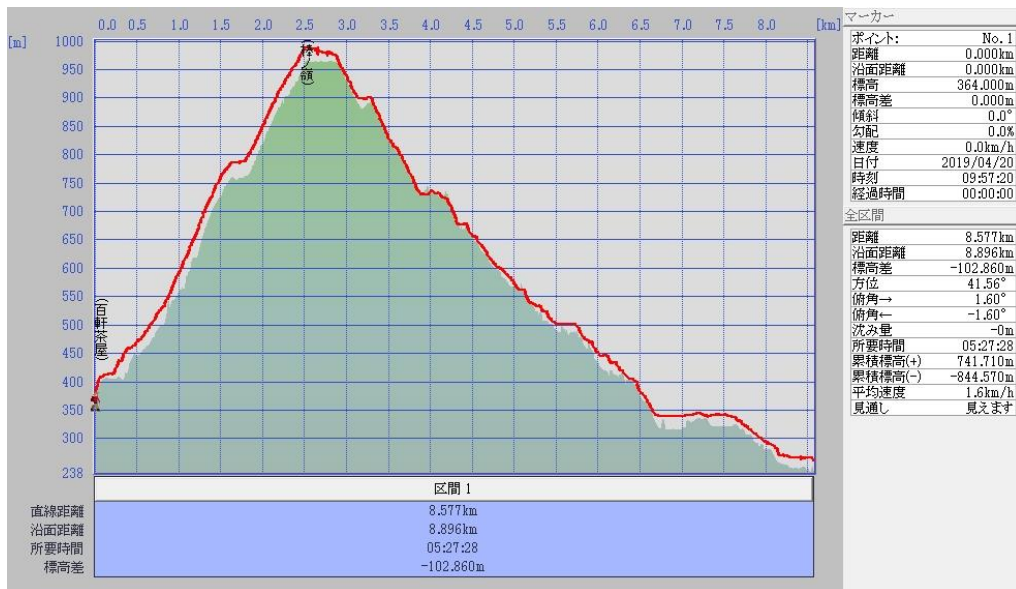
その後も沢沿いに道がつけられてどんどん下っていくが、途中で迷い込みそうな枝沢も何本か見た。その一つには大きく進入禁止の札がぶら下げられていた。実際に迷い込んで遭難事故を起こしたのだろう。沢道の横にはアカヤシオの花がちょうど満開だった。やがて道は沢から離れて樹林帯を行くようになり、



アカヤシオ

やがて白谷沢登山口に到達した。ここまで休みを入れても5時間。予定していたコースタイムより早いペースで無事辿り着いた。登山口から名栗湖と有間ダムを眺めながら30分下って「さわらびの湯」に到着。温泉は登山客で満員で、残念ながらゆっくり湯に浸かるという余裕がなかった。16時のバスに間に合うようにバス停に急いだがそこは長蛇の列。ちょうど我々のすぐ前で満杯となり、運転手の臨時便が出るからと言う虚言に騙され待つ事になったが、結局25分待って乗ったのは次の定期便だった。しかし飯能までの約50分をしっかりと座れたので、騙されて得をした気持ちだった。飯能では本場の中華料理屋で美味くて安い料金で腹一杯になりハッピーに第1回目の山行を終了した。

帰ってから記録をみるとほぼ予定通りに歩いており、今回は健脚向きのコースではありながら無事にこなせて安堵したというのが正直なところだが、2回目以降もゆとりのある予定設定で、関東ふれあいの道埼玉を楽しみたい。



GPS 軌跡図と高度グラフ